

国立職業リハビリテーションセンターにおける

# 視覚障害者の就労支援

－受障後に職業訓練を経て事務職へ就職した事例の課題と支援－

- 
- 鈴木幹子（国立職業リハビリテーションセンター 障害者職業カウンセラー）  
長谷川秀樹・能重はるみ（国立職業リハビリテーションセンター）

# 本稿のまとめ

**視覚障害者**は**支援機器の導入**により事務職を  
はじめ**情報処理職種**において**雇用の可能性高い**

# 本日の 発表内容

---

1. 背景と目的

---

2. 職業訓練の内容

---

3. 就職支援の内容

---

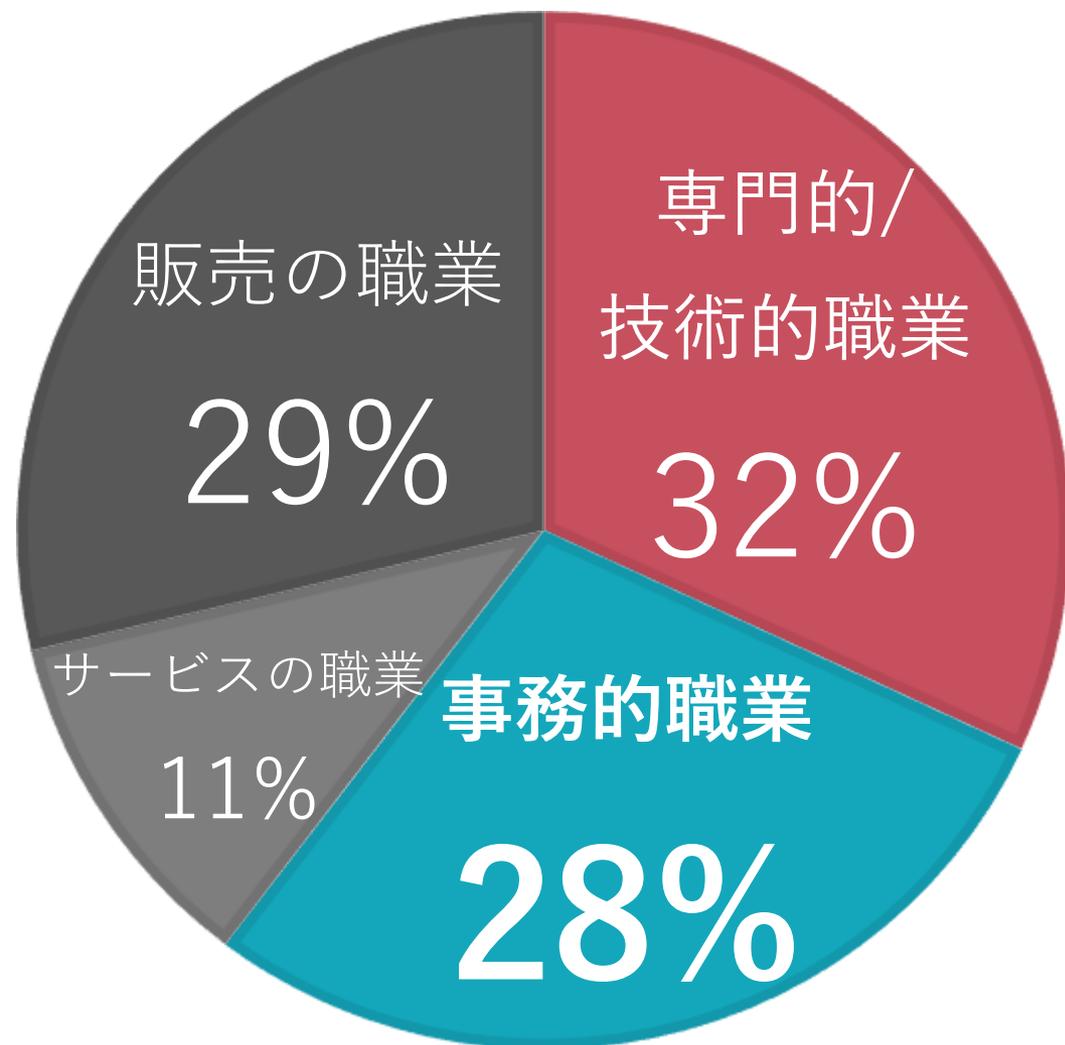
4. 事例の概要と支援内容

---

5. 課題と有効な支援策

# 背景

視覚障害者が  
従事している職業



# 目的

- 視覚障害者の職業訓練を実施している施設が少ない
- 多くの企業で障害に関する理解不足
- 雇用管理の経験が不十分

→ 職業訓練、就職支援などのノウハウの蓄積

# 職業訓練で活用する アクセス機器

## - 支援機器

拡大読書機

点字ディスプレイ

点図ディスプレイ

録音再生器

## - 支援ソフト

画面読み上げソフト

HP閲覧ソフト

画面拡大ソフト

OCRソフト

# 就職支援の内容

職業訓練と並行して  
職業支援を実施

主な就職支援	内容
職業相談 職業指導	適切な職業選択や効果的な就職活動の助言、 求人情報の提供、模擬面接を活用した面接対策等
採用面接の支援	就職面接会の周知や応募にかかる相談、 面接の同行を通し企業へ特性や配慮事項について助言
会社説明会の開催	企業担当者が採用職種や事業内容について、 訓練生に対して説明を行う説明会の開催
訓練生情報の公開	Web上での訓練生情報の公開（掲載希望者のみ） 採用に向けた企業との調整等

# 事例概要

---

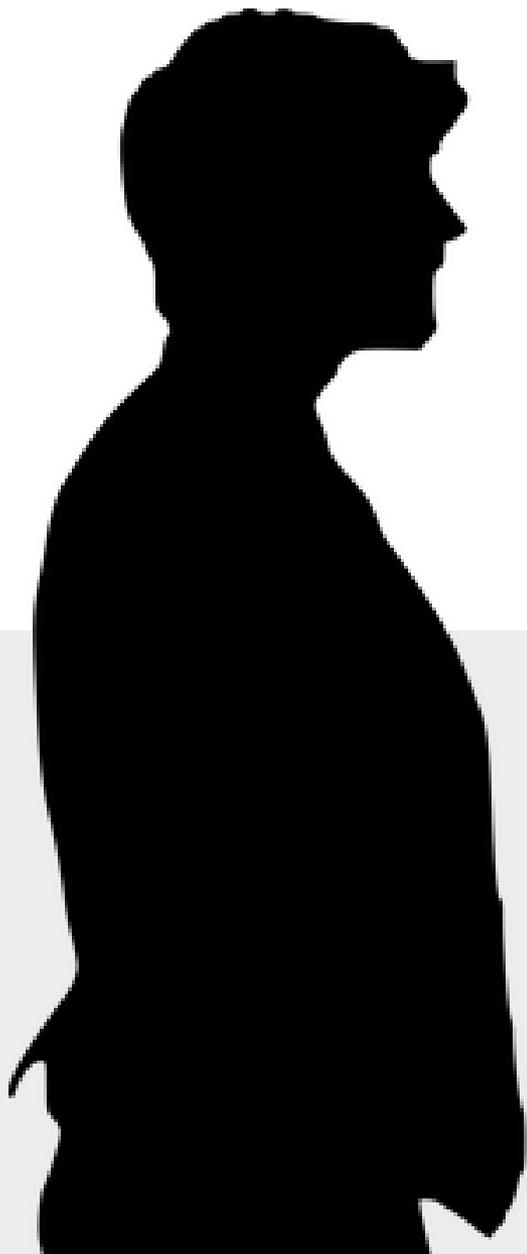
Demographics Data

- ・ **30代 男性**
- ・ 視野障害 2 級
- ・ 視力障害 2 級
- ・ 身体障害者手帳 1 級

X県地方都市出身

アミューズメント関連会社（対人業務）  
在職中に疾病により視覚障害を受障。

医療リハビリテーション機関を経て  
事務職を目指し職業訓練を希望し入校。



# 具体的なアプローチ

- (1) **移動**に関する支援
- (2) 訓練後の**生活拠点**を見据えた支援
- (3) **職業選択**にかかる職業相談
- (4) **面接同行**の支援
- (5) 求人検索訓練生情報を通じた**就職支援**

# 就職活動の課題

- (1) **情報アクセス**
- (2) **移動手段**の確保
- (3) **支援機器導入**の課題
- (4) 企業側の**理解不足**



# 有効な支援策

---

# 考察

就労支援の課題	有効な支援策
求人情報への情報アクセス	支援者と電子情報のやりとりや読み合わせ 応募書類の確認や封入作業等に支援
就職活動の移動手段確保	HWでの相談や採用面接のための移動手段の支援 同行援護についての情報提供や契約に係る手続きの支援
企業の視覚障害への認識	訓練場面で画面読み上げソフトを活用しながら入力を行 っている様子を撮影し、タブレット端末にて面接時に持参
企業の支援機器導入の負担	応募書類に読み上げソフト等の支援機器の無料貸し出しの パンフレットを同封

# まとめ

---

**視覚障害者**は**支援機器の導入**により事務職を  
はじめ**情報処理職種**において**雇用の可能性高い**